

令和8年度 5月号 令和8年5月1日発行

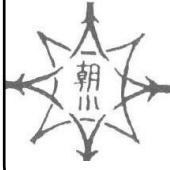
児童数616名

《学校教育目標》

かしこい子

やさしい子

たくましい子



朝霞第四小だより

朝霞市立朝霞第四小学校 〒351-0015 朝霞市幸町1-6-9
TEL (461) 0363 E-Mail 4shou@asaka-s.ed.jp

「言葉」・「言霊」の大切さ

校長 原口 憲充

始業式・入学式からおよそ1か月が過ぎました。子ども達もそして教職員もそれぞれの学年で、またそれぞれの立場で順調なスタートが切れたように思います。又先日行われた保護者会では、お忙しい中多くの保護者の皆様にご参加いただき、本当にありがとうございました。この場をお借りし感謝申し上げます。さて、緊張した面持ちで登校していた新1年生も、今では学校生活にも慣れ、元気に校内を走り回る姿が見られます。それぞれ進級した子どもたちも、新しいクラスや先生との生活に馴染み、教室に活気ある声が響いています。

しかし、この「慣れ」が出てくる時期こそ注意しなければならないことがあります。それは、学校生活に慣れ友達との距離が縮まることはとても良いことですが、遠慮がなくなることでつい「言葉」が乱暴になったり、優しさを欠いた行動が増える時期でもあるからです。ふとした瞬間の「言葉」、何気なく発した「一言」。自分にとっては「ほんの冗談」のつもりでも、受け取る側にとっては深く心を傷つけることがあります。一度口から放たれた言葉は、二度と取り消すことはできません。何気ない言葉の積み重ねが思いもよらず対人関係をこじらせてしまう。そんな場面を私達はこれまで何度も目にしてきました。

前もお話しましたが、日本には古来より「言霊（ことだま）」という考え方があります。言葉には不思議な力が宿っており、発した言葉が現実の出来事に影響を与えるという教えです。良い言葉を口にすれば良いことが起き、悪い言葉を吐けば悪い状況を招き寄せる。これは単なる迷信ではなく、私たちの心の在り方を示しているのではないのでしょうか。

「ありがとう」という感謝の言葉を使える人の周りには、自然と笑顔と協力の輪が広がります。一方で、不平不満や誰かを傷つける言葉ばかりを口にしていると、その人の心も、周りの雰囲気も、トゲトゲしいものへと変わっていきます。今、この一か月の節目に、自分たちが普段どんな言葉を使い、どんな「言霊」を響かせているか、ぜひ皆さん考えてみて下さい。

学校は、勉強だけでなく「人と共に生きる術」を学ぶ場所です。言葉一つで仲間を励ますこともできれば、笑顔にさせることもできます。言葉の持つ力を信じ、自分も相手も大切にできる温かな言葉が溢れる学校を、子ども達と一緒に造っていきたいと思います。